

乳酸キット

アテリカCH 乳酸Ⅲ (Lac)

■ 全般的な注意

- 本品は体外診断用医薬品ですので、それ以外の目的に使用しないでください。
- 本品の測定結果は、患者の治療歴、臨床症状その他関連する他の検査結果等を考慮して総合的に判断ください。
- 電子添文に記載されている以外の使用方法については保証しません。
- ヒト由来成分を含む試薬は、感染性のあるものとして使用ください。
- 使用する機器の電子添文及び取扱説明書をよく読んでから使用ください。
- 適切な保護手袋、保護衣、保護用眼鏡及び顔防御マスクを使用し測定ください。

■ 形状・構造等(キットの構成)

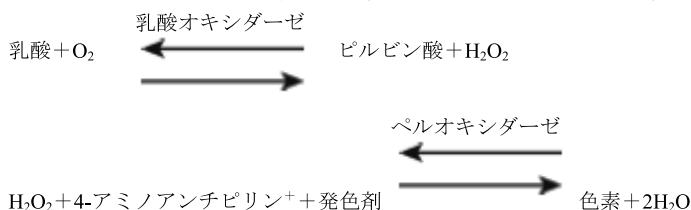
構成成分	構成試薬	ウェル	成分
バック1 (P1)	第一試薬	1,2	アスコルビン酸オキシダーゼ、アジ化ナトリウム (<0.1%)
バック2 (P2)	第二試薬	1,2	4-アミノアンチピリン、乳酸オキシダーゼ、ペルオキシダーゼ、アジ化ナトリウム (<0.1%)

■ 使用目的

血漿中の乳酸の測定

■ 測定原理

本品は、酵素法です。検体中の乳酸(Lac)は乳酸オキシダーゼによって酸化され、ピルビン酸及び過酸化水素を生成します。この過酸化水素をペルオキシダーゼの存在下で4-アミノアンチピリン⁺と発色剤に反応させ、生成する色素を比色測定することによりLac濃度を測定します。571/596nmにおける吸光度変化量は、検体中のLac濃度に比例します。



* ■ 操作上の注意

本品はAtellica CH生化学自動分析装置(Atellica CH)及びAtellica CI生化学免疫自動分析装置(Atellica CI)の専用試薬です。本電子添文に示した試験は、Atellica CHを用いて実施しました。

1. 測定試料の性質、採取法

(1) 検体の性質、採取法

- 本品の測定には血漿(フッ化ナトリウム、シュウ酸カリウム、ヘパリンナトリウム、ヘパリンリチウム)検体を使用ください。
- フッ化ナトリウムは、解糖を阻害することにより血漿中のLac濃度がより安定するため抗凝固剤として推奨されています。うっ血のない静脈から採血し、氷浴中に保存ください。30分以内に遠心分離により血漿を分離ください。分離が遅れるとLac濃度が上昇する可能性があります。検体は速やかに測定ください¹⁾。
- 取り扱い及び保存情報は、製造元のデータ又は参考資料に基づいています。利用可能な参考文献や独自の試験結果を用いて別の安定性基準を設定する場合は、各検査室の責任において行ってください。
- 検体を採取する際は、感染予防措置を講じてください。すべての検体は感染性のあるものとして取り扱いください²⁾。
- 静脈穿刺により血液検体を採取する際の推奨手順に従ってください³⁾。
- 検体の採取及び処理については、検体採取器具の取扱説明書に従ってください⁴⁾。

- 濁りや微粒子の多い検体は測定前に遠心分離ください。
- 採血管は常に栓をしてください⁵⁾。
- 明らかに汚染されている検体は使用しないでください。
- 検体を機器に装填する前に、検体中にフィブリン又は浮遊物や、気泡がないことを確認ください。
- CLSI及び検体採取器具製造元の推奨に従い、遠心分離により浮遊物を除去ください⁵⁾。
- 適切な検体容器の詳細については、機器画面のオンラインヘルプを参照ください。

(2) 検体量

1回の測定に必要な希釈検体量は5µLです。この検体量には、検体容器のデッドボリューム、2重測定や再測定等を実施する際に追加で必要になる量は含まれていません。最小必要量を決定する際の情報については、機器画面のオンラインヘルプを参照ください。

(3) 検体の保存

- 血漿検体は、2~8°Cで169時間冷蔵保存できます⁶⁾。また、-20°Cで1ヶ月間凍結保存できます⁶⁾。
- 保存検体は室内温度に戻してから使用ください。

2. 妨害物質・妨害薬剤

- 本品は、溶血、黄疸、乳びの影響が10%以下になるよう設計されています。CLSI EP07-ED3に従い、下表に示した濃度で評価しました⁷⁾。その結果、以下の濃度まで10%を超える影響は認められませんでした。

物質	物質濃度 (mg/dL)
ヘモグロビン(溶血)	1000
抱合型ビリルビン(黄疸)	15
非抱合型ビリルビン(黄疸)	30
Intralipid(乳び)	1000

- 血漿中に以下の物質が存在しても、下表に示した濃度までは10%を超える影響は認められませんでした。CLSI EP07-ED3に従い、評価しました⁷⁾。

物質	物質濃度 (mg/dL)
アスコルビン酸	12
エタンシラート	5

検査室で得られる測定結果は、示したデータと異なる場合があります。

■ 用法・用量(操作方法)

1. 試薬パックの準備

試薬パックはすべて液状のため、そのまま使用ください。

2. 必要な器具・器材・試料等

- * Atellica CH 生化学自動分析装置又はAtellica CI生化学免疫自動分析装置
- アテリカCH 生化学キャリブレーション(SPCL):凍結乾燥ヒト血清
- アテリカCH 希釈液
- 市販の精度管理物質
- その他の必要な器具・器材等については機器の取扱説明書を参照ください。

3. 機器の準備

機器の保冷庫に十分な数の試薬パックが装填されていることを確認ください。試薬パックの装填については、機器画面のオンラインヘルプを参照ください。

4. 校正

本品の校正には、アテリカCH 生化学キャリブレーション(SPCL)を使用ください。使用方法についてはアテリカCH 生化学キャリブレーション(SPCL)の取扱説明書を参照ください。

・校正間隔

- 以下の場合において、校正を実施ください。
 - 基本試薬パックのロットが変更となったとき
 - 校正済みの試薬ロットのロット校正間隔が終了したとき
 - 校正済みの試薬ロットのパック校正間隔が終了したとき
 - 校正済みの試薬パックのパック校正間隔が終了したとき
 - 精度管理の結果、校正が必要となったとき
 - メンテナンス又は整備の後の精度管理の結果、校正が必要となったとき

機器装填後の試薬安定性期間の終了時には、装填されている試薬パックを新しい試薬パックに交換ください。ロット校正間隔を過ぎない限り、再校正は不要です。

・ Atellica CH

ロット校正間隔	: 180日
パック校正間隔	: 14日
機器装填後の試薬安定性期間	: 90日

*

・ Atellica CI

ロット校正間隔	: 180日
パック校正間隔	: 14日
機器装填後の試薬安定性期間	: 90日

*

ロット校正間隔、パック校正間隔に関する情報については、機器画面上のオンラインヘルプを参照ください。
各検査室の精度管理プログラム及び手順によっては、より頻繁に校正が必要な場合もあります。

5. 機器装填後の安定性

- * 試薬パックは、機器に装填後、Atellica CH及びAtellica CIにおいて90日間安定です。
- 機器装填後の安定性期間が過ぎた試薬は廃棄ください。

* 6. 精度管理

本品の精度管理については、既知濃度の精度管理物質を少なくとも測定日ごとに1回、2濃度用いて実施ください。
各検査室の状況に応じて精度管理を追加することができます。精度管理物質は、精度管理物質の取扱説明書に従い使用ください。

以下の場合には新たに精度管理を実施ください。

- ・校正実施の後
- ・新しいロットの試薬を使用する場合
- ・トラブルシューティングを実施した後の測定結果が病態や症状に合わない場合

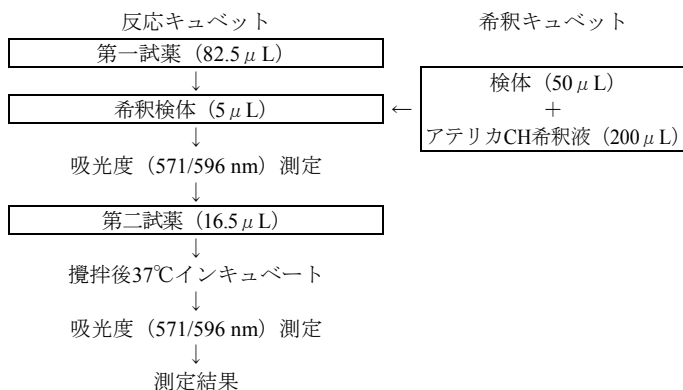
各検査室の精度管理手順により、より頻繁に精度管理の実施が必要となる場合もあります。

測定値が、機器の期待値の範囲内又は適切に実施された検査室内の精度管理法によって設定した範囲内であるとき、性能は基準に達しています。得られた結果が許容範囲から外れた場合は、検査室の精度管理手順に従い対応ください。精度管理の情報の入力に関しては、機器画面上のオンラインヘルプを参照ください。

精度管理結果が許容範囲から外れた場合は、結果を報告せず、検査室の手順に従い、是正措置を実施ください。推奨手順については、機器画面上のオンラインヘルプを参照ください。

7. 測定法

機器により次の動作が自動的に実施されます。



* 測定時間：Atellica CH 7.4分、Atellica CI 7.6分

■ 測定結果の判定法

1. 結果の判定法

機器画面上のオンラインヘルプに記載の計算スキームを使用し、結果を算出します。機器は設定画面で定めた単位に応じて、結果をmg/dL (慣用単位) 又はmmol/L (SI単位) で報告します。

換算式：mg/dL (慣用単位) × 0.111 = mmol/L (SI単位)

* 2. 参考基準範囲

CLSI EP28-A3cに従い、成人健常者の参考基準範囲をAtellica CHを用いて設定し、Atellica CIを用いて検証しました⁸。

検体種	参考基準範囲
血漿 ⁶	4.5~19.8 mg/dL

他の検査薬と同様に、参考基準範囲は各検査室において設定ください。上記の値は参考値として取り扱ってください。

3. 判定上の注意

- 本品は、ヒト血漿 (ヘパリンリチウム、フッ化ナトリウム、シュウ酸カリウム、ヘパリンナトリウム) 中のLac濃度測定にのみ使用ください。
- 他の化学反応と同様に、薬物又は内因性物質が測定結果に未知の影響を与える可能性がありますのでご注意ください。患者の総合的な臨床状態を考慮して結果を評価ください。
- 多くの物質が血漿中のLac濃度の生理学的変動の原因となります。可能性のある妨害物質、それらの血漿中の濃度及び生理学的関与についての包括的な考察に関しては、本文書の範囲外となります。既知の可能性のある妨害物質の詳細については、■主要文献に記載の文献を参照ください⁹。
- 静脈穿刺は偽低値を示す可能性があるため、N-アセチルシステイン (NAC) 投与前に行ってください⁶。
- グリコール酸およびグリオキシル酸などのエチレングリコールの代謝物は、乳酸オキシダーゼと交差反応し、偽高値を示す可能性があります¹⁰。

■ 性能

1. 測定範囲

1.8~140.0 mg/dL
得られた結果が測定範囲外の場合はフラグが表示されます。測定下限値は、定量限界 (LoQ) です。測定範囲未満の結果については1.8 mg/dL未満と報告ください。

2. 自動再検時の測定範囲

自動再検により測定範囲は700.0 mg/dLまで拡張されます。自動再検を用いる場合は機器の設定が必要です。自動再検結果は、[再検] と表示されます。

3. 性能

■用法・用量 (操作方法) の測定法により、感度・正確性・同時再現性の各試験を行なった場合、下記の規格値に適合します。

- 感度試験
別売のキャリブレーションL2とキャリブレーションL1 (ブランク) を測定したときの吸光度の差は、30 mAU以上です。
- 正確性試験
濃度既知管理検体を用いて測定するとき、その測定値は表示値の±20%以内です。
- 同時再現性試験
濃度既知管理検体を複数回同時に測定するとき、その変動係数 (CV) は10%以下です。

4. 相関性

・ Atellica CH

CLSI EP09cに従い重み付きDeming 回帰を使用して求めました¹¹。本品 (y) と他の酵素法 (x) の相関性の結果は以下のとおりです。

検体	回帰式	濃度範囲 (mg/dL)	N ^{※1}	r ^{※2}
血漿 (ヘパリンリチウム)	y = 0.95x + 1.5 mg/dL	5.9~106.6	108	0.998

- ※1 検体数
- ※2 相関係数

*

・ 機器間差
CLSI EP09cに従いDeming直線回帰を使用して求めました。Atellica CI (y) と Atellica CH (x) の機器相関性の結果は以下のとおりです。

検体	回帰式	濃度範囲 (mg/dL)	N ^{※1}	r ^{※2}
血漿	y = 0.98x - 0.2 mg/dL	6.7~138.2	100	1.000

- ※1 検体数
- ※2 相関係数。小数第四位を四捨五入した値。

相関性は、試験デザイン、比較対象の測定法、検体母集団により異なるため、各検査室で得られる測定結果は、示したデータと異なる場合があります。

5. 検体種の同等性

CLSI EP09cに従い重み付きDeming 回帰を使用して求めました¹⁾。各血漿同士の同等性の結果は以下のとおりです。

対照品 (y)	本品 (x)	回帰式	濃度範囲 (mg/dL)	N ^{※1}	r ^{※2}
血漿 (ヘパリンナトリウム)	血漿 (ヘパリンリチウム)	$y = 1.00x + 0.1 \text{ mg/dL}$	6.9~126.6	53	0.996
血漿 (フッ化ナトリウム/シュウ酸カリウム)	血漿 (フッ化ナトリウム/シュウ酸カリウム)	$y = 0.98x + 0.8 \text{ mg/dL}$	5.1~120.8	50	1.000

※1 検体数

※2 相関係数。小数第四位を四捨五入した値。

検体種の同等性は、試験デザイン、検体母集団により異なるため、各検査室で得られる測定結果は、示したデータと異なる場合があります。

*6. LoB、LoD、LoQ

CLSI EP17-A2に従い実施しました¹²⁾。

本品は、ブランク上限 (LoB) が検出限界 (LoD) 以下、LoDが定量限界 (LoQ) 以下、LoQが1.8 mg/dL以下になるよう設計されています。

LoDは、95%の確率で検出可能なLacの最低濃度に相当します。また、LoBは、ブランク検体において測定されるLacの最高濃度に相当します。ブランク検体225測定及び低濃度検体225測定による総数450測定を行った結果、本品のLoDは1.7 mg/dL、LoBは1.0 mg/dLと算出されました。

LoQは、室内再現精度CV20%以下の検体におけるLacの最低濃度に相当します。複数の患者検体を1日1回で5日間、試薬3ロットを用いて5重測定した結果、本品のLoQは1.8 mg/dLと算出されました。

各検査室で得られる測定結果は、示したデータと異なる場合があります。

7. 標準物質のトレーサビリティ

本品は高純度品から調製した社内標準品にトレーサビリティを有しています⁶⁾。

■ 使用上又は取扱い上の注意

1. 取扱い上の注意

- 検体及びヒト由来成分を含む試薬は、HIV、HBV、HCV等の感染のおそれがあるものとして取り扱いください。検査にあたっては感染の危険を避けるため使い捨て手袋を着用し、また口によるピペッティングを行わないでください。
- 試薬が誤って眼や口に入った場合には、水で十分に洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば医師の手当等を受けてください。
- 本測定で使用する試薬には、保存剤としてアジ化ナトリウムが含まれているものがあります。詳細は、■形状・構造等 (キットの構成) 又は■用法・用量 (操作方法) の必要な器具・器材・試料等を参照ください。誤って眼や口に入ったり、皮膚に付着したりした場合は、水で十分に洗い流す等の応急措置を行い、必要があれば医師の手当て等を受けてください。

2. 使用上の注意

- 試薬を凍結しないでください。第一試薬と第二試薬は透明です。濁った場合は使用しないでください。
- 未開封の試薬パックは、2~8℃で保存した場合には製品に記載されている使用期限まで安定です。
- ラベルに記載された使用期限を過ぎた製品は使用しないでください。
- 同一ロットであっても、試薬の注ぎ足しはしないでください。

3. 廃棄上の注意

- 検体中にはHIV、HBV、HCV等の感染性のものが存在する場合がありますので、廃液、使用済み器具等は、次亜塩素酸ナトリウム (有効塩素濃度1,000 ppm、1時間以上浸漬) 又はグルタルアルデヒド溶液 (2%、1時間以上浸漬) による消毒処理、あるいはオートクレーブ (121℃、20分以上) による滅菌処理を行ってください。
- 試薬や検体等が飛散した場合には、拭き取り及び消毒を行ってください。
- 危険性のある試薬又は感染性廃棄物は、検査室の基準に従い廃棄ください。試薬及び器具等を廃棄する場合には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、水質汚濁防止法等の規定に従い処理ください。
- 本測定で使用する試薬には、保存剤としてアジ化ナトリウムが含まれているものがあります。詳細は、■形状・構造等 (キットの構成) 又は■用法・用量 (操作方法) の必要な器具・器材・試料等を参照ください。アジ化ナトリウムは鉛管、銅管と反応し、爆発性の強い金属アジドを生成することがあるため廃棄の際には、多量の水と共に流してください。各法令に従い廃棄ください。

■ 貯蔵方法・有効期間

貯蔵方法：2~8℃

有効期間：15ヶ月 (使用期限は外箱に表示)

■ 包装単位

品名	シームスコード
アメリカCH 乳酸Ⅲ (Lac) 600テスト用	11537218
P1 (第一試薬) 2本	
P2 (第二試薬) 2本	

〈別売〉

アメリカCH 生化学キャリブレータ (SPCL) 11099438
10×5.0 mL

アメリカCH 希釈液 11099300
2×1.5 L

その他の包装単位につきましては、弊社までお問い合わせください。

■ 主要文献

- Jacobs DS, Kasten BL, DeMott WR, eds. *Laboratory Test Handbook*. 2nd ed. Stow, OH:LexiComp Inc; 1990:245.
- Clinical and Laboratory Standards Institute. *Protection of Laboratory Workers From Occupationally Acquired Infections; Approved Guideline—Fourth Edition*. Wayne, PA:Clinical and Laboratory Standards Institute; 2014. CLSI Document M29-A4.
- Clinical and Laboratory Standards Institute. *Procedures for the Collection of Diagnostic Blood Specimens by Venipuncture; Approved Standard—Seventh Edition*. Wayne, PA:Clinical and Laboratory Standards Institute; 2017. CLSI Document GP41-A7.
- Clinical and Laboratory Standards Institute. *Tubes and Additives for Venous and Capillary Blood Specimen Collection; Approved Standard—Sixth Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2010. CLSI Document GP39-A6.
- Clinical and Laboratory Standards Institute. *Procedures for the Handling and Processing of Blood Specimens for Common Laboratory Tests; Approved Guideline—Fourth Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2010. CLSI Document GP44-A4.
- Data on file at Siemens Healthcare Diagnostics.
- Clinical and Laboratory Standards Institute. *Interference Testing in Clinical Chemistry; Approved Guideline—Third Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2018. CLSI Document EP07-ED3.
- Clinical and Laboratory Standards Institute. *Defining, Establishing, and Verifying Reference Intervals in the Clinical Laboratory; Approved Guideline—Third Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2010. CLSI Document EP28-A3c.
- Young DS. *Effects of Drugs on Clinical Laboratory Tests*. 3rd ed. Washington, DC: AACC Press; 1990.
- Tintu A., Rouwet E., Russcher H.: Interference of ethylene glycol with L-lactate measurement is assay-dependent. *Annals of Clinical Biochemistry* 2013; 50:70-72.
- Clinical and Laboratory Standards Institute. *Measurement Procedure Comparison and Bias Estimation Using Patient Samples; Approved Guideline—Third Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2018. CLSI Document EP09c.
- Clinical and Laboratory Standards Institute. *Evaluation of Detection Capability for Clinical Laboratory Measurement Procedures; Approved Guideline—Second Edition*. Wayne, PA:Clinical and Laboratory Standards Institute; 2012. CLSI Document EP17-A2.

■ 問い合わせ先

シームスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
カスタマーケアセンター
電話：03-4582-5520

■ 製造販売元

シームスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
東京都品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー

輸入